



5年

自然の暮らしを楽しもう！ 大岡里山LABO

横浜市立大岡小学校 増井 雅子



実際の
資料は
こちら

単元構想から立ち上げまで ～先生の頭の中をのぞいてみよう～



今年は5年生の担任になった。3・4年生でものづくり・福祉をテーマに学んできた子どもたちは、自然環境に興味を持つだろう。国語「春の俳句をつくらう」で校庭や大岡川へ出かけてみよう。

小単元①(3時間) 今年の総合を決めよう

①校庭や地域の川へ出かけ、春探しをする。 (国語「春の俳句をつくらう」との関連)

このギザギザの葉っぱはヨモギっていうんだね。いい香り！ヨモギ団子を作って食べてみたい。

見て見て！大岡川に魚が泳いでいるよ！魚とりにしてみたい。



それはいい考えだね！先生も食べてみたい。他に食べられる草はあるのかな？



何の魚だろう？魚とり、楽しそうだね。みんなは他にやってみたいことはある？

私は、まちにどんな動物や植物がいるのか調べてみたい。

じゃあ、今年の総合の時間は自然を楽しむ活動がいいんじゃない？みんなに提案してみようよ！

2 地域の自然環境について調べる

子どもがどのような活動を展開できるか想定するために、大岡川と弘明寺公園周辺の環境や、そこに生息する動植物・水質・食べられる野草・自然遊び等について調査。(書籍・現地・先行実践)

弘明寺公園にはカタバミやミント、フキなどの野草がたくさんあるから、春は野草料理を楽しめるだろう。大岡川にはマハゼ・チチブなどの汽水域を好む生き物がいるから、魚とりや飼育を楽しめるだろう。ハグロトンボをきっかけに、大岡川の水質の変化について考えることができそうだ。



※1

※2



今年の総合の時間は、みんなで地域の生き物について調べたり、食べられる植物を見つけて料理したりして、自然を楽しむ活動をしたんだけど、どうですか？

地域の自然と関わる活動で、どんなことができそうかみんな考えてみようか。



いいね。面白そう。

でも、どんなことをやるの？

4 行政の取組について調べる

横浜市の自然環境の課題と行政の取組について、AIで基本的なことを調べる。大岡川の水質改善のための取組と、緑を保全する取組や思いについて、横浜市みどり環境局に取材。(メール・対面)

大岡川は、条例の制定や下水の整備、企業の積極的な協力、市民団体(大岡川ファンクラブなど)の地道な活動があって水質が改善されたことが分かった。横浜全域で水質はほぼ改善されており、現在の自然環境に関わる大きな課題は緑地保全であることが分かった。行政の取組について知ること、子どもたちは多様な機関が連携して環境保全に取り組んでいることに気づくだろう。

3 市民団体の取組について調べる

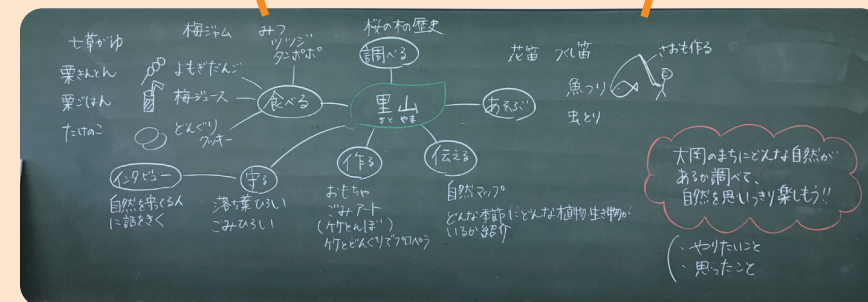
横浜で環境保全に携わる方々の取組や生き方について、大岡川ファンクラブ・弘明寺公園愛護会・よこはま里山研究所NORAに取材。(現地で体験・インタビュー)

NORAの森づくりの活動は、伐木や木の皮むき、薪割りなど様々な作業があって面白かった。子どもたちには、森づくりの楽しさを感じてほしい。そして、ゴミだらけで暗い森だった川井緑地を、人の手を入れることで明るい森にし、25年間管理し続けている取組のよさや、「横浜の緑を未来に残したい」という思いで活動しているNORAの方の思いに触れ、自然のある暮らしを支えてくれている人々がいることに気づいてほしい。

②体験をもとにやってみたいことを を広げ、今年の総合を決める。

単元の立ち上げ

大岡のまちにどんな植物や
生き物がいるか調べて、
自然を楽しむ活動がしたい！



4月3週目

5 ウェビング・ 単元づくり シートの作成 (QRコード参照) 学年研究会で検討 ▶講師の先生から 助言をいただく

4月4週目

6 年間指導計画・ 活動案の作成 (QRコード参照) ▶推進委員会・ 高学年部会・ 学年研究会で検討

POINT

- ✓ 材をリストアップする際に、教科関連を考え最適な学年を選ぶ。
- ✓ まずは教師がやってみる(探究する)。
- ✓ 地域の方、専門家等への取材は4月に行う。
- ✓ 周りの先生方に気軽に相談し、多様な視点から単元を構想する。
- ✓ 対象との「出会い」を仕掛ける。



※1：森 昭彦『食べられる草ハンドブック』(自由国民社)
※2：横浜市みどり環境局環境科学研究所『よこはまのいきものハンドブック』

単元立ち上げ後の活動の展開

小単元②(30時間)

春夏秋冬の自然の暮らしを楽しもう

春

- 校庭・弘明寺公園の生き物調査
- ヨモギ団子作り
- 椎茸の菌コマ打ち
- 野草料理(カタバミのサラダ、タンポポ茶、フキの煮物など)
- 草花遊び

夏

- 大岡川の生き物調査
- 川遊び
- 魚とり、カニ釣り、トンボとり
- 梅ジュース作り

秋

- 水取沢市民の森・弘明寺公園の生き物調査
- 干し柿作り
- どんぐりクッキー作り

冬

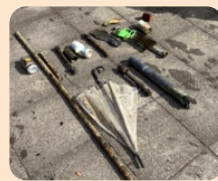
- 大岡川・弘明寺公園の生き物調査
- 野鳥観察
- シュロのほうき作り
- ムクロジ石鹸作り



小単元③(8時間)

大岡川はどうやってきれいになったのだろうか

- 大岡川ファンクラブに取材
- 大岡川ファンクラブの活動に参加、運営のお手伝い
- 川清掃
- 横浜市みどり環境局水・土壌環境課の方に取材
- 水質調査(パックテスト)の実施



大岡川って昔はすごく汚かったんだね。今の岡川は、きれいなのかな？どうやってきれいになっていったのかな。

ホトケドジョウが絶滅危惧種になったのは、緑が大幅に減ったからなんだね。どうしたら横浜の緑を守ることができるのだろう。



9月

小単元④(15時間)

どうしたら横浜の緑を守ることができるのだろうか

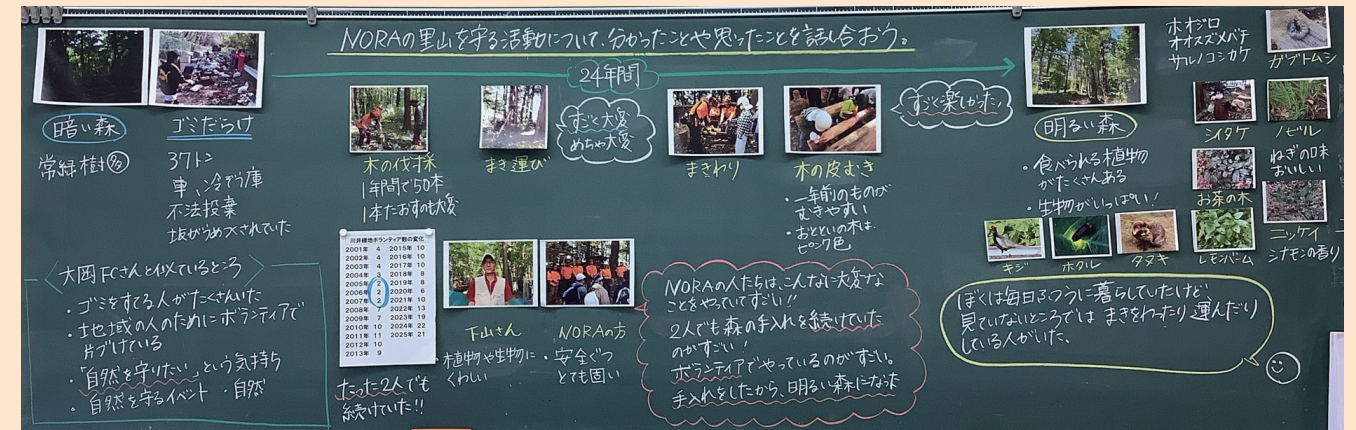
- 横浜市みどり環境局の方に取材



- 川井緑地で森づくり体験



- よこはま里山研究所NORAの方に取材



NORAの皆さんのように、環境保全のための工夫や努力を長い間続けてきてくれた人たちがいるから、今も横浜市には豊かな自然が残っているんだね。身近にある自然は当たり前にあるものではなくて、行政・市民団体・市民が協働して、守り育ててきたものなんだ。私たちも、5年2組特別里山環境課として、自分たちにできることがしたい。これまで見つけた大岡のまちの自然のよさについて、地域の人たちに伝えたいな。



小単元⑤(12時間)

まちの自然のよさを発信しよう

- まちの自然に関する意識調査
- まちの自然ガイドツアー

大岡のまちには、こんなに豊かな自然があったんだね。木の実を食べたり、草花や川で遊んだり、魚を捕まえたり、生活に使えるものを植物から作ったりするのがこんなに楽しいなんて知らなかった。私たちの大好きなまちの自然を守るために、これから大岡川ファンクラブや里山レンジャースの活動に参加するなど、自分にできることを考えて行動したい。そして、自然のある暮らしをずっと楽しんでいきたいな。



10月
~11月

2月
~3月

竹田先生のコメント

環境をテーマにした総合では、調べ学習から入る実践も見られる中、本実践はまさに地に足のついた実践と言えます。まず、国語学習と関連付け、校庭や学校前の川の自然環境に目を向けさせています。校庭のヨモギで団子を作ったり、川で魚釣りをした子ども達は、市街地でもよく見れば豊かな自然があることや、自然と関わる活動の楽しさを実感したことになると思います。

ここから、今年の総合は、まちの自然を楽しむ活動がしたいと考えた子ども達によって、単元が立ち上がります。子ども達の主体性を大切にすると同時に、教師は明確なねらいを

もち、深い教材研究に基づいて、子ども達を揺さぶり、子どもの願いを引き出す意図的な仕掛けをしています。この時点で、教師は年間の単元構想を立て、ゴールの子ども姿を明確にしています。

これをベースとして、子どもとともに創り出した学びが、「単元立ち上げ後の活動の展開」に示されています。子ども達が楽しみつつ、本気で学んでいる姿が見えるようです。

教師と子どもがともに単元を立ち上げ、本気の学びを創り出した素晴らしい実践であると思います。

大岡川が昔はゴミだらけでドブ川と言われていて、ハグロトンボが絶滅してしまうほど汚かったと知って驚いた。今は多くの生き物が生息していて、水質もきれいだった。横浜市役所が制度や下水を整備したり、大岡川ファンクラブさんが30年間清掃活動を続けてきたりしたから、きれいな川に戻ったんだね。

